

再評価結果（平成23年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課

担当課長名：三浦 真紀

事業名 ：地域高規格道路 有明海沿岸道路 一般国道208号 大川佐賀道路	事業区分 ：一般国道	事業主体 ：国土交通省 九州地方整備局			
起終点 ：起点：福岡県大川市大字大野島 終点：佐賀県佐賀市嘉瀬町	延長 ：9.0km				
事業概要 ：国道208号大川佐賀道路は、地域高規格道路である有明海沿岸道路の一部を担う延長9.0kmの道路であり、有明海沿岸部都市群の地域間の連携及び交流促進に寄与するものである。					
H13年度着工準備		H19年度都市計画決定			
H1年度用地着手		H1年度工事着手			
全体事業費 ：約560億円	事業進捗率 ：3%	供用済延長 ：— km			
計画交通量 ：18,700～21,500台/日					
費用対効果分析結果	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;"> B/C： (事業全体) 2.1 (残事業) 2.2 </td> <td style="text-align: center;"> 総費用：(残事業)/(事業全体) 347/366億円 (事業費：331/351億円) (維持管理費：15/15億円) </td> <td style="text-align: center;"> 総便益：(残事業)/(事業全体) 776/776億円 (走行時間短縮便益：623/623億円) (走行経費減少便益：105/105億円) (交通事故減少便益：48/48億円) </td> </tr> </table>	B/C ： (事業全体) 2.1 (残事業) 2.2	総費用 ：(残事業)/(事業全体) 347/366億円 (事業費：331/351億円) (維持管理費：15/15億円)	総便益 ：(残事業)/(事業全体) 776/776億円 (走行時間短縮便益：623/623億円) (走行経費減少便益：105/105億円) (交通事故減少便益：48/48億円)	基準年 ：平成22年
B/C ： (事業全体) 2.1 (残事業) 2.2	総費用 ：(残事業)/(事業全体) 347/366億円 (事業費：331/351億円) (維持管理費：15/15億円)	総便益 ：(残事業)/(事業全体) 776/776億円 (走行時間短縮便益：623/623億円) (走行経費減少便益：105/105億円) (交通事故減少便益：48/48億円)			
感度分析の結果 ：残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=2.4（交通量 +10%） B/C=2.1（交通量 -10%） 事業費変動：B/C=2.0（事業費 +10%） B/C=2.5（事業費 -10%） 事業期間変動：B/C=1.9（事業期間+20%） B/C=2.5（事業期間-20%）					
事業の効果等					
①交通混雑の緩和 ・国道208号の損失時間の削減（120.0万人時間/年⇒97.2万人時間/年） ・混雑度の低下（国道208号2車線区間 1.6⇒1.1，主_佐賀外環状線 1.2⇒0.3） ・所要時間の信頼性の向上による便益【約18億円※】 ②交通安全性の向上 ・国道208号の死傷事故率の低下（2車線区間：205.8件/億台扣⇒108.5件/億台扣） （4車線区間：224.0件/億台扣⇒129.3件/億台扣） ・国道208号の交通事故件数の削減（2車線区間：90件/年⇒28件/年） （4車線区間：130件/年⇒49件/年） ③沿道環境の改善 ・国道208号の騒音レベル低減（2車線区間：昼間71dB⇒69dB，夜間67dB⇒65dB） ④物流効率化の支援 ・佐賀空港から伊万里団地電子部品工場への所要時間短縮（約30分） ⑤救急医療活動の支援 ・救急医療活動のアクセス時間の短縮とアクセスが向上する人口（約2分，約0.6万人） ・救急医療活動路アクセス向上便益【約3億円※】 ⑥広域的な観光の支援 ・佐賀県有明海沿岸地域の観光客（約1,069万人/年間）の広域的な観光の支援					
※は、供用後50年間の便益額として試算した値（参考値）					
関係する地方公共団体等の意見 ：佐賀市をはじめとする2市8町及び佐賀県バスタクシー協会や佐賀県トラック協会等で構成される有明海沿岸道路建設促進佐賀県期成会等により、早期整備の要望を受けている。（平成22年7月）					
県知事の意見 ：福岡県知事 有明海沿岸道路は広域的な連携を担う地域高規格道路であり、地域にもたらす整備効果は広域的でかつ大きいため、継続して整備すべきと考える。完成4車線化については、交通需要等について十分な調査・予測を行い、適切な時期に事業を実施すること。 佐賀県知事					

早期整備を強く望んでいるところであり、継続することについては、異議ありません。

佐賀県では、地域や産業の活性化のため、地域間の移動時間や距離を短縮するとともに、予定している時間どおりに移動・輸送ができるようになることを目指しており、このため、県内の主要都市を結ぶ走行性の高い広域幹線ネットワークの整備が必要です。今回、再評価される大川佐賀道路も広域幹線道路ネットワークを形成する道路となっており、引き続き整備を進めていただくため。

事業評価監視委員会の意見

審議の結果、事業継続。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

佐賀市内から市外へ、市外から佐賀市内への通勤者数は一貫して増加の傾向にある他、並行路線の国道208号の2車線区間では混雑度が1.5を超過するなど、依然として交通混雑の状況を呈している。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成21年度末の事業進捗率は事業費ベースで約3%である。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

地元や関係機関との協力体制のもと、早期の用地買収及び工事の着手に向けて、地質調査及び道路予備設計の進捗を図っていく。

施設の構造や工法の変更等

- ・当面暫定2車線整備に必要な事業費に見直し【約149億円】
- ・新技術・新工法活用を検討、建設副産物対策により、着実なコスト縮減。
- ・大川佐賀道路軟弱地盤対策技術検討委員会において、既に施工を行っている福岡県側の有明海沿岸道路の事例等を参考に、佐賀地区特有の諸条件に適応した軟弱地盤対策工の選定、設計、施工について検討を行い、コスト縮減を図る。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上事業の効果、事業評価監視委員会における審議、知事等の意見を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



- 凡例
- 未供用
 - 2車線
 - 4車線
 - 有明海沿岸道路
 - 国道
 - 主要地方道
 - 県道
 - インターチェンジ
 - 佐賀県庁
 - 市役所
 - 市庁舎



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。